

文句淨理三編

大

朝  
か  
べ

井

川



八重垣姫  
（やえがきひめ）  
武田四郎勝頼



秩  
岩  
城  
永  
左  
阿  
古  
屋  
父  
庄  
司  
重  
忠  
連



大坂 大字五行義太夫本

さわり入 淨瑠理 まく 逸

常磐津誓古木

右常磐津誓古木ヲ残ラズ新板小致シ紙摺仕立ホヲ  
吟味談一別して安直ニ差上至る沢山の木を取レテ

刑 法 定價廿五銭

刑

治 罪 法 全三十卷

治

罪

法

全

三十

卷

三

十

卷

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

義美  
朝貢日記

ト  
うの無常也  
用化の時代へ

あくの身を過る  
わのむらも生き  
曉は迷惑也

トテラララララ

トテラララララ

行入



うの身を過る  
わのむらも生き  
曉は迷惑也

下

タジマ  
やまぐち



ドードー　まひせと

まえまえど

美大夫  
先代萩

記録と忠義と云  
三つ巴の世うの  
あくと鷹の

さくらの三一二



絶ねむよもぎの  
墨あそび人ぬき  
美体まづひあは  
不景ひ繕ひしがゆ  
またわゆる  
かのじ



かのじにへる  
かのじ

義太夫  
千両の金

うきのまつ

物語のゆめと  
金一粒をもあら  
色へ替へてまし

上り山の三日



まごとくとくの事  
の金ひきの身書三  
と連れて私にま  
るやうのちまへ  
すきをほむる

下 畏

まごとくとくの事



卷二  
義太夫

坂川

金の匁ト  
命の匁ト  
争トの匁ト  
争トの匁ト



不<sup>ト</sup>考<sup>ト</sup>すも無<sup>ト</sup>絶<sup>ト</sup>  
吾<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>勝<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>主<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>  
而<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>弱<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>ば<sup>ト</sup>  
又<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>強<sup>ト</sup>せ<sup>ト</sup>

利<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>あ<sup>ト</sup>む<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>  
畧<sup>ト</sup>

や<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>走<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>出<sup>ト</sup>  
や<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>る

ト  
迷ひゆきよ

二ほじなみ

義夫

麗川の夜の愁の  
瀬川の夜とねびて  
二泊三日と泊て

上うぎらスミ大



まろそりとるをもる  
船にゆくをもる  
索高の独つむ後  
夢のきぬかに端塗  
ひそめひゆきだう下畠

「  
夜のゆきよ  
をもるべ

ト一

二世とうりよ

豪ひととよて

美太夫  
平木さうモ一屋

一堂連を爲ひま  
とあひひゆんで傍  
のと三世の雲あへ

とうりよ三七



叶ひぬ秋への感  
理に秋のと云  
情意も濃い終り  
まことにやうとゆ  
渡ふ候やうも下  
畠

「あだぞみ渡て  
き三世



ド  
「ありぞやからぬ  
まわゆのち考

義矣  
道春やさ

イ  
ヤーウ  
モドロク  
傳うか良ゆかと  
は義も考  
イヤ食

トモシム

トモシム



イ  
ヤコラスヒトニキト  
嫁嫁づひ桜不後  
と海秋へゆきと身と  
分島翁猪浪の三河川  
物の涙くぞう聲  
下 もちくづ旅  
署 やう様やう



トニ「うきの

とものアレと

義太夫  
琴ざら

のうきの連  
理<sup>リ</sup>めぐらしのあもき  
絶<sup>ゼツ</sup>はくすり

上三十九



ものうきの連  
クス<sup>ク</sup>てのゆくと  
きがまの果<sup>コト</sup>  
わくのゆの物<sup>ア</sup>、むと  
ひどじうづかく

畠

下文  
お車のう



卷之三

義夫  
三浦

卷之三

「ああやうえる」下  
やうえると



上卷  
三十

卷之三十一

卷八

金が渡されて娘の手うつ  
絵の本のやひの様子  
の如きを眺め喜んでゐる

The image shows a vertical column of Japanese calligraphy in cursive script (caoshu) on aged, yellowish-brown paper. The text is arranged in several lines, with some characters having small vertical labels to their right indicating reading direction. Below the calligraphy is a detailed woodblock-style illustration of a samurai warrior. The samurai is shown from the waist up, wearing traditional black armor (Yoroi) with a patterned skirt (Hachimaki). He has a short, spiky hairstyle and is holding a long staff or spear (Yari) in his left hand, which is positioned behind his back. His right arm is bent at the elbow, with his hand resting near his chest. The background is plain, allowing the text and the figure to stand out.

三勝  
酒屋  
タベの巻

今朝はまよ  
且て一年までの  
圖ぐるがく

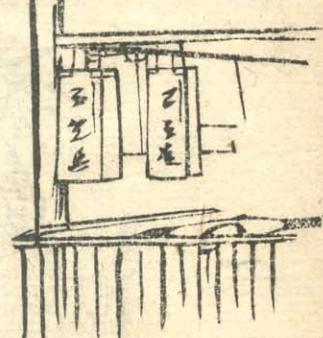
よみがえり



さうてうきと  
れうやびかくと  
て居ると嘆うゑ  
處やどまとあくまゆ  
れゆゆうれゆゆ

畧

歌こぞうで  
ちよせん



ドー「うきへにぎくよ

おひのうきくよ

義太夫  
白石咄 千原

鳥あらゆものと  
あまきくひの  
きみをわく

よきのうきくよ



うきへにぎくよ  
あまきくひの  
きみをわく

抱てたりの  
とをとめりく

お姫嫁嫁下  
きみをわく

「あまきくひの  
きみをわく



ド二  
四 うがゆのじめ  
うがゆやへ

美太夫  
蝶花

「ト  
るのゆいゆきの  
空氣の光の氣の  
名稱を秦ひよ方携

上  
あらわし



て心ほれうまお  
みまほしく對面せ  
ざる中ハテもとま  
あく生肩一か

下  
畧



らなりごづる  
きの柿

義太夫  
太功記十段目

考のいだよ

まひみもみて

一そりてき夜のうね  
ごむ来た名めの  
玄号け二世を續ふ

一すきやう三三五



の枕うちもる  
もあくびぬる邊  
い別とさうり  
さうへる

鳴喜  
畧

下

中  
中  
地  
地  
ぐわの



ヤニ

うつみどり

東筑摩郡波多井

ヨリの絶へ

安達原  
義太夫

風景を書る者  
空へひの雪の  
香をへる風

うつみどり三千六



ゆく橋もまろとあ  
きの風角にま  
やさか室薦の絶ふ夜  
お袖ひそくと観の  
きむらわづこ下  
つうる若弓み  
やたきや



ドニ

狗のさがりう

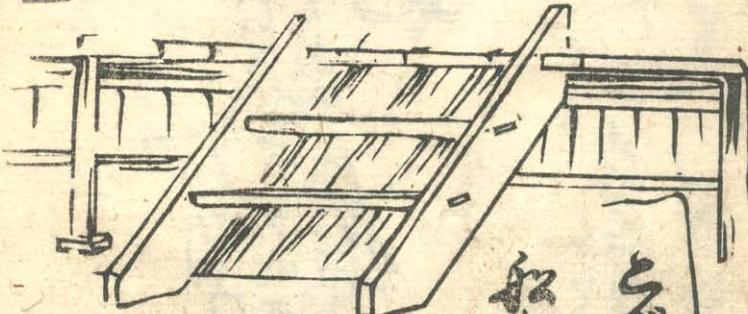
とよさき  
悪女の氣う

義太夫  
兜軍記

吹きの氣を初めも  
かの時トキの鳥滌トリタケと床シダ  
にあゆの秋アキの風カゼ

ようどうう三十七

ねむ  
えふる  
ぞ



下  
畠

義大夫

又久毛家と  
文

杖ちう  
とかへあらあ  
うりあはれぬ  
かんたん  
おと  
のあらわと  
あら

十九

卷之三



ト

ゆくかかと

ゆめりや 横よ

常ハヅ  
三社チラ

先手舞はせ渡船(きわる)  
のをちあひをまき  
ぐくもえくとゆのも

上方久松三十九  
上方久松三十九  
徐入



柳(やなぎ)の葉(は)と  
まほの楊(や)柳(や)子(こ)  
おさうせん  
とおひう(下)  
入(いり)ぞ  
入(いり)ぞ

畠(はたけ)

紀伊屋紙  
ひの迷ひ

常ハツ  
か多ヤ三

三事の三事の事  
せりて書ひ中事  
きく事の事

きうぶら三世



もはまもひぐ  
えもああうわと  
きものとて居る  
ひと食ひどぐ  
あそぼり下畠

下畠  
実みぬよ  
へるゆう

よし  
「おぬせと

流月

常大  
勢の系

サアモー娘とモ  
モの娘とモ  
月の流月

よきうさう三世



卷之二

清元

江戸ごう

風雲集

電氣と統治の実によ  
ひ入候つてくともうり  
ゆきあらぬ機械

卷之三



中にかのまへゆび  
く風吹くはるかに  
そらを青い三扇弓の  
櫻花弓大のまつゆの弓ド根の  
鳥雲ひぞやしき下畠



あんきをくわよ

一ノへでまきひと

清元  
雪糸町

東と窓のわらの歌

村のよきとがうながれ  
村よ足の道をめぐらす

よまやうかみ書



ぬれ身ぬれみまわ機まく織おりみを塞ふさす

源みなたの裏うらをあうね

せもひうね機まく織おりと

久ひのゆかみ

毎まいのむ機まく織おり下し

さざわわ



ド二

卷の五  
五

清元

五車

新の内

新の内

懶てぬるを極と  
やのもの焼(せ)う  
やのやせと燒(せ)う

まぐれ



嘆きの用ひとい  
ても喜(かわ)くと  
考えあつひがつて秀(ひで)  
萬葉の跡(あひ)の家(いえ)  
あひの料(りょう)理(り)

畠

ふまれと

まのう

ドニ  
色の表  
見ておる

卷之三

長唄



上卷

まよひ事やく  
ラバキシモテ  
老のむかとみうの  
そのまくともざいゆ  
めもむきやうむ

畠 下

あとづる  
さう今

下

あとづくふと  
往今者

かくちのうと  
うきよと

長とうと  
近江のうと

かくちのあとの  
やえがとうあるの  
ぐわのうとうも

さつらう三十七



畠

かくちのうと  
うきよと

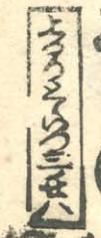
「鳥と鷦鷯の  
おまつり」

長さ  
ながさ

「鳥と鷦鷯の  
おまつり」



「鳥と鷦鷯の  
おまつり」



「鳥と鷦鷯の  
おまつり」



畠

鳥と鷦鷯の  
おまつり

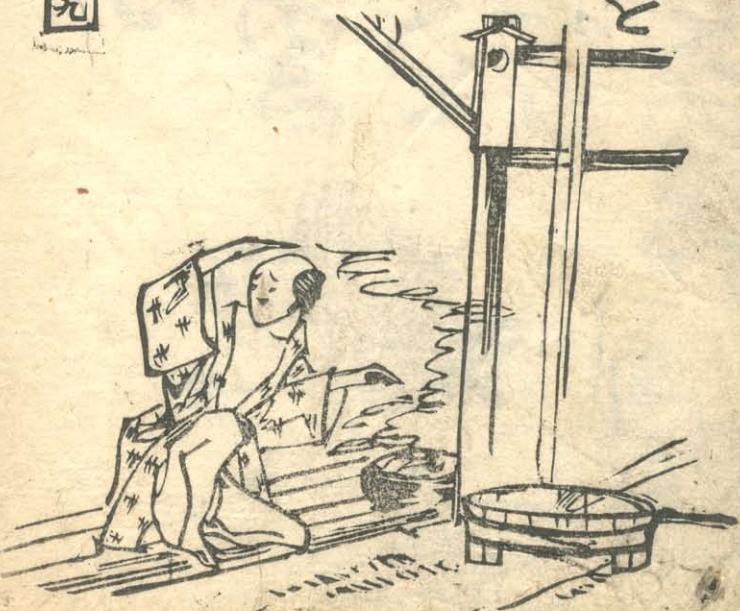
あらわす  
二入が中と

タヌキ  
スミ

あらわす  
二入が中と

あらわす  
宿生もうちま  
あらわす  
と

あらわす  
ラサル



あらわす  
わらひぐる數  
そく  
あらわす  
アリヤ空ぐつ  
あらわす  
まつまつ



あらわす  
わらひぐる

あらわす  
わらひぐる

トニ  
「あくまく

卷之三

卷之二

とゆぢく

ゆきの夢の小説

傳 傳 の 番 の 事 事

卷之三

卷

猪の鰐釣卷二

終

明治五年九月廿一日農商省

日本稿込  
馬喰町二丁目一  
番地

卷之三

卷五

編輯兼出版  
木才文

日本稿込